

2015年9月関東・東北豪雨での 茨城県常総水害について

石上 耕司[†] 堤 悠介 安田 貢2021年10月23日～
11月20日 Web開催

IRYO Vol. 77 No. 3 (181–184) 2023

要旨

【本災害の概要】2015年9月9日から11日にかけて台風18号の影響で関東・東北地方に水害がもたらされた。茨城県常総市付近では、9月10日早朝より鬼怒川の数カ所で越水や堤防からの漏水が発生し、堤防1カ所が決壊した。これにより常総市では鬼怒川と小貝川に挟まれた広範囲が水没し、直接的な死者2名、災害関連死12名、負傷者40名以上の人的被害のほか、2つの病院、常総市役所本庁舎が浸水したのをはじめ、全半壊家屋5,000棟以上という甚大な被害が生じた。【本災害のポイント】①線状降水帯というワードが広く知れ渡った。②2つの川に挟まれた部分が広範囲に浸水したため、陸路で浸水地点に全くアプローチできない特殊性が生じた。③関東ブロックのDMAT (Disaster Medical Assistance Team) を要請した。④浸水エリアに2病院存在し転院搬送を行った。⑤災害医療コーディネーターが実災害で初めて活動を行った。⑥急性期はDMATを中心として医療活動を行い、その後、地域災害医療調整本部（現在における保健医療調整本部）を設けて医療活動を継続した。

上記ポイントを踏まえ、本災害について考察し報告する。

キーワード：線状降水帯，DMAT，保健医療調整本部，災害医療コーディネーター

はじめに

2015年9月9日から11日にかけて台風18号の影響で関東・東北地方に水害がもたらされた。茨城県の南部に位置する常総市付近では、9月10日早朝より鬼怒川の数カ所で越水や堤防からの漏水が発生し、堤防1カ所が決壊した。これにより常総市では鬼怒川と小貝川に挟まれた広範囲が水没し、直接的な死者2名、災害関連死12名、負傷者40名以上の人的被害のほか、2つの病院、常総市役所本庁舎が浸水し

たのをはじめ、全半壊家屋5,000棟以上という甚大な被害が生じた（図1）。

国立病院機構水戸医療センター（当院）は、県中央部に位置する基幹災害拠点病院である。茨城県庁まで3kmと近く、統括災害医療コーディネーターとDMAT隊を複数有するため、災害時は茨城県庁に早期に本部構成要員を派遣可能である。

本災害においても発災後早期に災害医療コーディネーター、DMAT隊を派遣し活動を開始するとともに、DMAT調整本部に並行して地域災害医療調

国立病院機構水戸医療センター †医師

著者連絡先：石上 耕司 国立病院機構水戸医療センター 〒311-3193 茨城県東茨城郡茨城町桜の郷280

e-mail：k_ishigami@hotmail.co.jp

(2022年2月9日受付，2023年6月9日受理)

Report of September 2015 Flood Damage in Joso, Ibaraki Prefecture due to Heavy Rains in the Kanto and Tohoku Regions

Koji Ishigami, Yusuke Tsutsumi, and Susumu Yasuda

NHO Mito Medical Center

(Received Feb. 9, 2022, Accepted Jun. 9, 2023)

Key Words：flood damage, DMAT, Emergency Operation Center, Disaster medical coordinator